

小池都知事の歴史認識を糺す

「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典への追悼文拒否」問題

小池百合子氏が東京都知事に再選された。しかし4年間の実績と政治姿勢を見る時、都政を託すことに重大な疑義がある。4年前「7つのゼロ」とともに掲げたのは、「築地は守る」「都民が決める、都民と進める」「情報公開は一丁目一番地」という政治姿勢であった。公約は「ペット殺処分ゼロ」以外は未達成である。この総括なしに、再び「東京大改革 2.0」などと言いつけている。加えて3つの政治姿勢は、完全に踏みにじって平然としている。嘘・隠蔽・改竄・私物化を続けて恥じない安倍首相と同列である。加えて都知事選で

は議論にならなかった大問題がある。歴代東京都知事があの石原慎太郎氏ですら拒否しなかった「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典」への追悼文を拒否していることである。この問題は、国家権力犯罪とはいえない。しかし国政・地方政治にとって、その首長が誤った認識に基づいて行動した時、国家権力犯罪と同じような結果をもたらす。従って、小池都知事のこの問題に関する政治姿勢は厳しく糺されなければならない。以下、小池都知事が追悼文を拒否した「関東大震災朝鮮人虐殺」について問題点を提起する。（福島 清）

小池東京都知事は、1973年以来、毎年9月1日に墨田区・横網公園で行われている「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼式典」への追悼文を、2016年を最後に2017年以降は拒否している。歴代知事で初めてのことだ。またこの年、「そよ風」と称する団体が追悼式典と同日同時刻に関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑のすぐ近くで集会を開き、「朝鮮人が震災に乗じて略奪、暴行、強姦などを頻発させ、軍隊の武器庫を襲撃したりして日本人が虐殺されたのが真相だ」などと無茶苦茶な宣伝を行った。小池氏は、2010年に「そよ風」と在特会が共催した集会で講演をした。その縁からか「そよ風」は2016年都知事選で小池氏を支持した。小池氏は、関東大震災で犠牲となられたすべての方々への追悼の意を表しているから朝鮮人犠牲者の追悼式典にことさら追悼文を送る必要はないとしているが、本音は明らかに違うのではないか。

関東大震災時の“朝鮮人虐殺”は事実だ

関東大震災発生から朝鮮人虐殺が始まり、それが沈静化する過程について、ノンフィクション作家・加藤直樹さんは『朝鮮人虐殺』をなかつたことにした人たちトリックの「はじめに」で次のように指摘している（要約）。

関東大震災が発生したのは、1923（大正12）年9月1日午前11時58分。震源は相模原沖一帯で、マグニチュード7.9、最大震度7。昼食時で、しかも折からの強風にあおられたことで、各地で発生した火災は瞬く間に広がり、3日朝まで続いた。これにより東京市の44%、



横網町公園にある「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑」

横浜市に至っては80%が焼失した。被災者は約340万人、死者は約10万5000人に上った。

翌2日には東京市と東京府下の5郡に戒厳令を施行する。戒厳令は、翌3日には東京府全域と神奈川県に、4日には千葉県、埼玉県に拡大された。

2日以降、「朝鮮人暴動」流言は各地で朝鮮人への迫害に帰結する。上野公園や荒川河川敷のような避難場所では群衆が朝鮮人を見つけ次第に襲い、被災していない地域では自警団が結成されて検問を行い、15円50銭」と発音できない者を竹やりや日本刀で殺害したりした。

警察や軍が朝鮮人暴動の实在を否定し始めるのは3日のことだ。いくら調べても朝鮮人のテロや重大犯罪の痕跡が見当たらなかったのである。この日、戒厳司令部は、「朝鮮人が放火を働いたという事実がないわけではないが、軍隊が配置された今はもう（2面へ）

追 悼

関東大震災朝鮮人犠牲者

この歴史
永遠に忘れず
在日朝鮮人と固く
手を握り
日朝親善
アジア平和を打ち
たてん

藤森成吉

一九二三年九月発生した関東大震災の混乱のなかで、あやまった策動と流言蜚語のため六千余名にのぼる朝鮮人が尊い生命を奪われました。

私たちは、震災五十周年をむかえ、朝鮮人犠牲者を心から追悼します。

この事件の真実を識ることは不幸な歴史をくりかえさず、民族差別を無くし、人権を尊重し、善隣友好と平和の大道を拓く礎となると信じます。思想、信条の総意を越えて、この碑の建設に寄せられた日本人の誠意と献身が、日本と朝鮮両民族の永遠の親善の力となることを期待します。

一九七三年九月

関東大震災朝鮮人犠牲者

追悼行事実行委員会

1973年、東京都墨田区横網町公園内に建立された「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑」の碑文

(1面から) 大丈夫なので、朝鮮人が襲撃してくるといった「出所不明の無頼の流言蜚語」に惑わされて「軽拳妄動」をしてはならない、という、どっちつかずではあるがとにかく虐殺を抑止する方向の訓示を出す。

9月下旬以降、虐殺事件の容疑者検挙が始まる。10月20日には朝鮮人関連の報道が解禁され、各地で起きた虐殺事件が新聞で大々的に報じられた。しかし、流言拡散についての責任追及や朝鮮民衆の反発を恐れる政府が虐殺事件のわい小化や隠蔽に努める方針を採ったことから、検挙、起訴は一部の事件にとどまり、判決でも被告の量刑は軽いものとなった。政府は行政機関の責任について明らかにすることはなく、被害の全貌について調査することもなかった。そのため、今に至るも正確な死傷者数は不明のままである。朝鮮人被殺者のほとんどは、名前すら明らかになっていない。

「内閣府中央防災会議」の報告書から

以上の「トリック」記述の根拠になっているのが、「中央防災会議 災害教訓の警鐘に関する専門調査会」「災害教訓の継承に関する専門調査会報告書」(2008年3月)「1923関東大震災【第2編】」である。

http://www.bousai.go.jp/kyoiku/kyokun/kyoukunnok/eishou/rep/1923_kanto_daishinsai_2/index.html



災害教訓の継承に関する専門調査会報告書 平成20年3月 1923 関東大震災【第2編】

膨大な報告書にある「第4章第2節殺傷事件の発生」では冒頭に「関東大震災時には横浜などで殺傷事件が生じたほか、朝鮮人が武装蜂起し、あるいは放火するといった流言を背景に、住民の自警団や軍隊、警察の一部による殺傷事件が生じた」と明記している。

以下、「第2節 殺傷事件の発生」から、要点を抜粋して紹介する。

- 武器を持った多数者が非武装の少数者に暴行を加え

たあげくに殺害するという虐殺という表現が妥当する例が多かった。殺傷の対象となったのは、朝鮮人が最も多かったが、中国人、内地人も少なからずあった。

• 殺傷事件による犠牲者の正確な数は掴めないが、震災による死者数の1～数%にあたり、人的損失の原因として軽視できない。

• 自然災害がこれほどの規模で人為的な殺傷行為を誘発した例は日本の災害史上、他に確認できず、大規模災害時に発生した最悪の事態として、今後の防災活動において念頭に置く必要がある。

• 震災直後の殺傷事件で中心をなしたのは朝鮮人への迫害であった。2日午後以降に発生した広範な朝鮮人迫害の背景としては、当時、日本が朝鮮を支配し、その植民地支配に対する抵抗運動に直面して恐怖感を抱いていたことがあり、無理解と民族的な差別意識もあったと考えられる。

• 特に3日までは軍や警察による朝鮮人殺傷が発生していたことが東京都公文書館所蔵の「関東軍戒厳司令部詳報」の「震災警備ノ為兵器ヲ使用セル一覧表」から確認できる。(この後「中国人の殺傷」「日本人の殺傷」に触れているが略)

• 以上、公的記録を見ても、震災直後に殺傷事件が多発したことは明らかである。そして、これらは殺傷事件の全貌を示そうとした調査ではないので、この他にも殺傷事件が発生していたことは確実である。もちろんすべてではないが、軍、警察、市民ともに例外的とは言いつれない規模で武力や暴力を行使したことは重く受け止める必要があろう。

以上のように、関東大震災時に朝鮮人が虐殺されたことは、確定した事実なのである。

関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑

加藤さんが「トリック」に書いている「関東大震災朝鮮人犠牲者追悼碑」建立の経過を紹介する。

*

東野英治郎と共に若き日に「俳優座」を結成し、日本の演劇に多大な足跡を残した俳優・演出家の千田是

也はご存知だろうか。彼が伊藤国夫という本名に代えて「千田是也」という芸名を名乗るようになった背景には、関東大震災直後に経験した出来事があった。

震災当時、彼は19歳で、東京・千駄ヶ谷に住んでいた。震災翌日の2日夜、朝鮮人の集団が日本人を襲っているという流言を信じた彼は、朝鮮人との戦いに加わるべく、杖を手に街に飛び出す。反対に朝鮮人に間違えられ、竹やりやこん棒で武装した男たちにこづきまわされる。たまたま彼を知る者が通りかかったことで解放されたが、危ういところだった。

ところがその後、戒厳司令部が「朝鮮人暴動」の流言を明確に否定する。10月下旬には、報道規制の解除によって、関東各地で繰り広げられた朝鮮人虐殺の事実が大々的に報じられる。むごたらしい出来事を伝える紙面を読み進めるうちに、彼の胸に一つの思いが膨らんでいったのだろう。もしあのとき、自分が朝鮮人を発見し、とり囲む側に加わっていたら、何が起きただろうか――。

「私も加害者になっていたかも知れない。その自戒をこめて、センダ・コレヤ。つまり千駄ヶ谷のコレヤン（Korean）という芸名をつけたのである」（『決定版昭史4』毎日新聞社、1984年）。その千田が1973年、東京・両国にある、震災と空襲の犠牲者を慰霊する横網町公園に「朝鮮人犠牲者追悼碑」を建立しようという呼びかけに応じて「関東大震災50周年朝鮮人犠牲者追悼行事実行委員会」に参加したのは必然だった。その時点で東京には、虐殺された朝鮮人を悼む碑は一つも存在しなかったのである。呼びかけたのは「日本と朝鮮両民族の理解と友好」を掲げる「日朝協会」であり、これに応えたのは、思想信条を超えた幅広い人々だった。

実行委員会には、東京都議会の各会派の幹事長や天台宗僧侶の壬生照順などととも、千田是也も名を連ねた。この実行委に寄付などを通じて協力したのは、約600人の個人と250の団体に上る。

私の手元にはそのリストがあるが、そこには当時の美濃部亮吉都知事をはじめ、市川房枝（二院クラブ）、宇都宮徳馬（目民党）といった国会議員、全日本仏教会を設立した僧侶の友松円諦、江東区区長の小松崎軍次、歴史学者の石母田正、作家の石垣綾子といった名前が見える。団体では社会党、共産党の都レベルの組織はもちろん、自民党、公明党、民社党のいくつかの区議団、様々な企業、労働組合、寺院、劇団、病院、法律事務所などが名を連ねている。在日韓国・朝鮮人の名前がないのは、日本人の手で追悼碑を建立することに意義があると考えたからだろう。

この中には、千田のように朝鮮人迫害の現場を経験した人や、それを見聞きした人もいたに違いない。あるいは虐殺を生き延びた在日朝鮮人の思いにふれた人もいたかもしれない。1923年の惨劇からまだ50年しか

経っていなかったのだ。

1973年9月、こうした多くの人々の思いの結晶として朝鮮人追悼碑が横網町公園内に建立され、東京都に寄贈された。以来、毎年9月1日にはその前で追悼式典が行われ、歴代の都知事が式典に追悼文を寄せてきた。そこには、あの時代を経験した多くの人々の「惨劇を三度と繰り返させない」という思いが込められていた。小池百合子都知事の追悼文送付取りやめは、こうした歴史的な重みをもった営みをあっさりとして否定する行為だったのである。

ところで、小池都知事の決定の背景にあったのが自民党の古賀俊昭都議と右翼女性団体「そよ風」の働きかけであったことはすでに指摘したが、「そよ風」は単に行政に働きかけるだけでなく、なんと9月1日の同じ時間に、同じ横網町公園で、彼らの集会を開くということさえやってみせた。震災当時に被服廠跡で火災による死者を多く出した石原町の遭難者たちを悼むという建前を掲げているが、実際にはその会場に「六千人虐殺は本当か！ 日本人の名譽を守ろう」などと大書した3畚の看板を掲げるなど、実態は虐殺否定を目的とした集会である。

「そよ風」周辺の人物は、朝鮮人犠牲者の追悼集会とこの集会が同時につぶされるという流れをつくるのが「そよ風」の集会開催の目的だと語っている。要するに、朝鮮人追悼式典をつぶし、さらには追悼碑を撤去させるために、石原町の死者たちを利用しているわけだ。朝鮮人犠牲者だけでなく関東大震災の犠牲者全体を冒瀆する所業である。

虐殺犠牲者の追悼碑は横網町公園だけでなく各地にあるし、追悼式典も各地で行われている。虐殺否定論の狙いは、こうした営みを消し去ろうとするところにあるのだ。

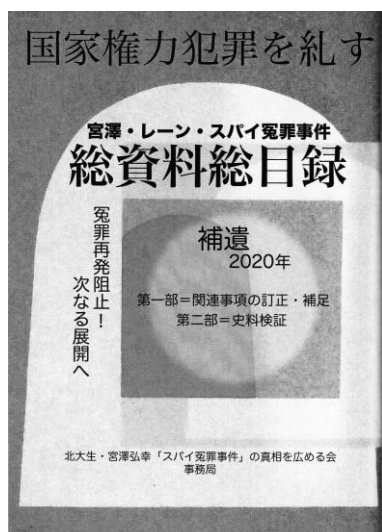
小池都知事、追悼式典開催を妨害

「9.1関東大震災朝鮮人犠牲者追悼実行委員会」は、昨年9月、小池都知事に対して、今年（2020年）の追悼式典会場使用許可を申請した。ところが都は、使用条件整備中だとして、申請受理を3回にわたって拒否した。その上で12月24日には「誓約書」を要求してきた。その内容は「公園管理者が中止等の指示をした場合は従います」というものであった。

実行委は都に対して、これまで反したことがあるかと文書で質したところ「今回設けた条件に概ね合致している」と回答した。つまりヘイトスピーチをして恥じない「そよ風」の集会と同列に扱うことで実行委員会主催追悼式典を取り潰す意図があると断じざるを得ないのだ。

以上、小池都知事の歴史認識と実際に進めている行為は極めて危険である。国家権力犯罪に道を開く行為を徹底して監視し、追及していくべきだと考える。

<お礼と中間報告>



「補遺2020年」は、6月1日付で300部発行し、2018年発行の「総資料総目録」を送付した会員・弁護士・研究者・マスコミ関係者・主要図書館等270人・所に郵送しました。

現在までに約60人のみなさまから制作費カンパをいただいています。ご協力に感謝申し上げます。

*

……………訂正致します……………

藤森研さん（朝日新聞OB、元新聞労連委員長）から、以下のご連絡をいただきました。

ポーリン手記などを収載した『総資料総目録 補遺2020年』を本日、拝受しました。さっそく一気に読ませていただきました。ポーリンさんの人柄や読み手への意識もあるのかもしれませんが、拘禁施設の人たちや警察官Xの「紳士的」な行動は、意外な叙述でした。戦前・戦中の日本のあり方について、ステレオタイプにだけは考えず、実証的に見ていくことの大切さも考えさせられて、たいへん勉強になりました。ありがとうございました。

細部の点ですが、一つだけ元司法記者として気になったのは、ポーリン手記10頁などで「勾留」と「拘留」です。前者は未決者の拘禁（刑事訴訟法）、後者は刑罰（刑法）で、異なるものですね。

それにしても、皆様の真実へのたゆまぬご努力には、敬服いたしました。

*

「正確に伝えたい」を大前提にして編集・制作にあたってきにもかわらず大変なミスでした。藤森さんに感謝して、訂正させていただきます。

<第1部>7頁上段、後から4行目＝拘留⇒勾留

<第2部>ポーリン手記 10頁本文3行目＝長期拘留⇒長期勾留。同4行目＝拘留替え⇒勾留替え。同7行目＝拘留者と被拘留者⇒勾留者と被勾留者。

なお本会ホームページ記載分については訂正したものをアップしていますが、既発行分については、本訂正記事でご了承をお願いします。（事務局）

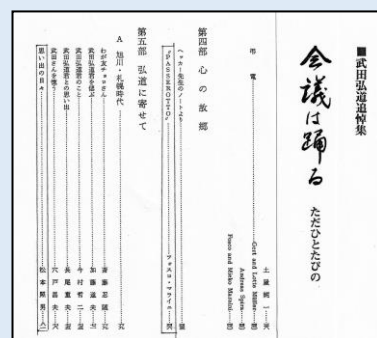
<コラム> 冤罪忘れるな! ④

「心の会」を伝える原典

『武田弘道追悼集』寄稿二篇

「心の会」の真中にいた武田弘道を偲ぶフォスコ・マラーニと松本照男の稿を収録。とくにマラーニは発足に至る経緯から情景交えた人模様まで10ページ余に渡って過不足なく回想している。いまではよく知られた発足時16人の記念写真も、この稿に添付されたのが公開の最初になる。稿は1984年12月の執筆で翌85年7月の刊。スパイ法案国会上程の年だった。

フォスコ・マラーニと松本照男の寄稿が掲載された「武田弘道追悼集 会議は踊る」の目次。編集発行人・題字・武田ひろ子。1985年、ミネルヴァ書房刊。



武田は、1919年北海道旭川の生れ。北大予科医類の頃から英独仏伊語を熟し、会の名を付けた大條正義と共に中軸中の中軸となり活躍した。頭の回転も口の回転も速くパセロット（伊語で小雀）の愛称を貰っている。予科修了を機に哲学に転じ、京都大で西洋哲学史を専攻、国際視野の業績を積んで、大阪市立大文学部長などを務めた。西洋古典学会の帰り、京都の自宅近くで転倒、硬膜下出血で急逝した。享年64。

◆ ◆ ◆

「スパイ冤罪事件」の真相に迫る決定版（本会編）

『引き裂かれた青春—戦争と国家秘密』花伝社刊

第1部＝冤罪の真相 第2部＝冤罪事実の条条検証
資料編＝判決全文、軍機保護法全文、年表
特別添付＝重要事項索引

申し込みは本会事務局までFAX・メールで（1面上部題字横に掲載）。送料税込み2300円。後払い。

【事務局から】中国は6月30日、全人代常務委員会が香港特別行政区の民主主義を奪い軍隊が人権抑圧する「香港国家安全維持法」を採択し即施行しました。政府批判スローガンは掲げただけでも、飲食店の店頭に貼ったポスターも許さないという徹底ぶりです。中国はさらに南シナ海の西沙諸島周辺で1日から軍事演習を実施して、ベトナムから抗議されていると報道されています。アメリカのトランプ大統領もアメリカさえ良ければとエゴ剥き出しです。コロナウイルス禍に国境はありません。国家権力の横暴・残酷によって破壊されている地球からの強い警鐘だと思っております。蒸し暑い日々、憂鬱が積み重なる日々です。（福島 清）